11 組忘年クラス会盛大に開催！（12 月 10 日＠上田）

寒冷の砌の 12 月 10 日（金）午後 6 時から、11 組のクラス会が上田「ホテル祥園」にて盛大に行なわれた。主幹事の羽田義久君、副幹事の深町美由君の頑張りと肝煎りにより、クラス総員の約半数 20 名と恩師上原孝先生が参集した。「こりゃ、他のクラス幹事には驚きと羨望の的じゃ」とは羽田君の言葉。クラス会は卒業後 4 回目になるが、初めての参加者が 6 名もいて、懐かしい面々が揃い合った。特に、紅一点の菊地（旧姓守田）暁子さんが態々東京青山から「紅白のワイン」を持参して駆けつけてくれた。（何も持って来ない男供、恥ずかしい限り！）

開会に先立ち、今年 11 月 24 日に心筋梗塞で急逝した後藤幸三君を悼み、全員で起立して黙祷！合掌した。開会の挨拶は中山正光で「我々は還暦を過ぎても未だ 61～63 歳と青春の真只中。無礼講とは言え、老人っぽい年金・病気・孫の話は止めようや。また自慢話もご法度で楽しくやろう」との提案があり、一同賛同の意見あり。その後、羽田君の名司会の下、出席者全員「近況報告と人生観」などを野次が飛び交う中、次々と披露した。欠席者については、欠席の挨拶の紹介や友人の説明で全員の音信が判明したことは素晴らしい。

当日あった話題を全部は記載しかねるが、「オランダ・北京在の者、引退後始めた農園経営者、次々と天下りする小役人、30 歳も若いのと再婚したやつ、引退後青木村の村会議員となったの、高校英語教育の拙さを嘆くもの、苦労している教員と歯医者、北海道えりもの赤鬚爺医者、俳句・囲碁・将棋・テニス・旅行三昧の彼ら、心臓バイパスをしている 4 人、恩師に京都旅行で殴られても失念した好青年、税理士として社会的地位を確立しつつある男、親子 2 代も恩師に教育を受けた可哀想なやつ、未だに趣味で単身赴任している」などいろんな話題が出て盛り上がった。上原先生へ、紅一点の菊地さんから豪華な花束を贈呈後、先生から今日禁句の筈だった「我人生の失敗と反省、大病の経験」の発言があり、一同絶句。そこは前応援団の田中建一君が「フレー！フレー！上原たーかーしー！」とのエールを送った所、先生も感涙のご様子に一同安心した。

校歌斉唱と全員の記念撮影で一次会は無事終了したが、カラオケ二次会に 15 名、袋町の三次会に 11 名が付き合って、翌日 1 時半に「5 年以内の再会」を誓っての散会となった。今回の参加者の感想は「青春の空白で空虚な 3 年間を少し取り戻せた」という安堵感であったろうか。紅一点参加の菊地さんからのコメントを紹介します。「クラスの皆さまにお目にかかるのは卒業以来でしたので、私を分かっていただけるかと不安でしたが、それは全くの杞憂でした。司会の絶妙のトークと皆様とのやり取りに時間の過ぎるのを忘れるところでした。
楽しいひとときを過ごさせていただき感謝一杯です。次回は女性陣 4 名の参加を実現したいと思っております。」

（幹事：中山記）

菊地さんから花束を贈られる上原先生

前列左から倉沢、青木、清水建、菊地、上原先生、羽田、田中、深町、中山

後列左から、荻久保、中村、居鶴、福沢、牧野、清水公、村岡、輿水、中沢、小出、国安

（注；小宮山正夫君は電車の都合で早退している）